



OB健在!

# 第13回 東京六大学OB合唱連盟演奏会

6月16日

加藤良一 2024年6月21日

**1st Stage**  
立教大学グリークラブOB男声合唱団  
「7つのスペイン民謡」  
(男声合唱とマリンバのための新編曲初演)  
作曲: Manuel de Falla  
編曲・指揮: 前川 和之 / マリンバ: 大熊 理津子 / ピアノ: 山北 賢斗

**2nd Stage**  
慶應義塾ワグネル・ソサィエティOB合唱団  
男声合唱組曲「ひたすらな道」  
作詩: 高野 喜久雄 / 作曲: 高田 三郎  
指揮: 藤井 宏樹 / ピアノ: 岩本 果子

**3rd Stage**  
明治大学グリークラブOB会合唱団駿河台倶楽部  
男声合唱とピアノのための組曲「漠とした輝きの欠片」  
作詩: 御徒町 颯 / 作曲: 宮本 正太郎  
指揮: 栗原 寛 / ピアノ: 村田 晋住子

**4th Stage**  
東京大学音楽部コールアカデミーOB合唱団  
男声合唱組曲「水のいのち」  
作詩: 高野 喜久雄 / 作曲: 高田 三郎  
指揮: 三澤 洋史 / ピアノ: 三木 碧子

**5th Stage**  
法政大学アリオンコールOBOG会・男声合唱団オールアリオン  
「萬歳流し」  
作曲: 柴田 南雄  
指揮: 貫井 隆夫

**6th Stage**  
早稲田大学グリークラブOB会・稲門グリークラブ  
「東京だよ おっかさん」  
編曲: 宇田川 安明  
指揮: 山脇 卓也 / ピアノ: 村田 雅之

**7th Stage**  
合同演奏  
エール交歓

**第13回 東京六大学  
OB合唱連盟演奏会**

**2024. 6.16 日**

12:00開場 / 13:00開演

**東京芸術劇場 コンサートホール**

2024年6月16日、2年ぶりとなる第13回東京六大学OB合唱連盟演奏会が東京芸術劇場コンサートホール(1999席)で開催されました。

このホールはオープンステージの本格的なコンサートホール。舞台正面にはパイプオルガンが据え付けてありますが、今回は使うことがなかったのので、反響板で綴じられたままでした。

前回(2022年)は東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコールがシャルル・グノーの『ミサ曲第2番』を演奏したので、みごとなオルガンが正面に現れていました。筆者はこのステージに賛助出演し、荘厳なオルガンに合せて気持ちよく歌うことができました。

今回の東大は全校の枠を取り払い「東京大学音楽部コールアカデミーOB合唱団」と団名を変えオールOBで出演しました。

現役の学生はコロナ禍の爪痕がかなり影響しているようで、厳しい状況になっていますが、OBは苦勞しながらも健在で頼もしいかぎりです。ぜひ現役を盛り上げる力になってほしいところです。

1<sup>st</sup>. 立教大学グリークラブOB合唱団

「7つのスペイン民謡」(男声合唱とマリンバのための新編曲初演)

2<sup>nd</sup>. 慶應義塾ワグネル・ソサィエティOB合唱団

男声合唱組曲「ひたすらな道」

3<sup>rd</sup>. 明治大学グリークラブOB会合唱団駿河台倶楽部

男声合唱とピアノのための組曲「漠とした輝きの欠片」

4<sup>th</sup>. 東京大学音楽部コールアカデミーOB合唱団

男声合唱組曲「水のいのち」

- 5<sup>th</sup>. 法政大学アリオンコールOB・OG会 男声合唱団オールアリオン  
「萬歳流し」
- 6<sup>th</sup>. 早稲田大学グリークラブOB会・稲門グリークラブ  
「東京だよ おっかさん2024」
- 7<sup>th</sup>. 合同演奏 エール交歓

立教は、マヌエル・デ・ファリャ作曲の組曲「7つのスペイン民謡」を指揮者前川和之さんによる男声合唱とマリンバのための編曲を初演しました。スペイン語の歌唱指導を受け、演奏に臨んだといいます。

80人近い大編成の慶應の選んだ曲は、高田三郎の「ひたすらな道」でした。指揮者の藤井宏樹さんは、プログラムに「… 演奏させて頂くそれぞれの作品が持つ死生感、高野、高田、両氏の人生を懸けた祈りの世界が基となり、私達に問いを突きつける。自己の生きざまを、私達はこの作品に出会うことで、問われているのだ。… 大学時代に声を失い、先生の愛情を支えに、合唱指導の道を歩み続けた。そしてまた… 此処に還ってきた。永く続く、ひたすらな道であった。」と寄せています。



明治は、2023年9月「大学OB合唱団による男声合唱新化学反応」で初演された「漠とした輝きの欠片」を演奏しました。今年混声版が初演されたまさに「旬」の合唱組曲ということでした。

東大ではOB合唱団がいくつか活動していますが、今年はその枠を取り払ってオールOBで名曲「水のいのち」に取り組みました。指揮者三澤洋史<sup>ふみひろ</sup>さんは、これまでこの曲を何度も演奏してきましたが、男声版を振るのは初めてとのことでした。「… なんと深い宗教的真理がここにあるのだろうか！ … 人間の全ての弱さをそのまま赦し受け止めてくれている大なる慈愛の存在を、今ほどリアリティを感じている時はない。…」とプログラムに認めています。

法政OBにとっては、かつて指揮者田中信昭さんの指導により、「委嘱のアリオン」とまで呼ばれた時代があったことが誇りとなっています。しかし、現役メンバーの減少により、2014年には定期演奏会の中止、2015年には東京六大学合唱連盟定期演奏会での単独ステージ中止にまでに至り、2016年からは女声メンバーの募集を開始し、同年から常任指揮者に蓮沼喜文さん(埼玉県合唱連盟常務理事)を迎え、いまや現役世代は男声を維持できず混声として活動を続けています。

今回OBたちは、柴田南雄による1975年の委嘱作品、シアターピースという舞台から客席までホール全体を使って演奏する「萬歳流し」に挑戦しました。「萬歳流し」は、会場いっぱい何組もの「太夫」と「才蔵」の萬歳ペアが門付けして回りました。門付けで頂戴した御捻りは能登半島地震の災害援助として寄付されます。

早稲田は宇田川安明編曲による「東京だよ おっかさん2024」を演奏しました。校歌のハミングで始まり東京にまつわる流行歌をメドレーで聴かせるもので、随所にソロや寸劇が入り、聴衆の笑いを誘う楽しいステージでした。楽譜としては、「なごり雪」だけが[グリークラブNEXT]に収録されているものの、他は未出版のままです。

最後は各校の校歌「立教大学カレッジソング」、「慶應義塾塾歌」、「明治大学校歌」、「東京大学の歌『大空と』」、「法政大学校歌」、「早稲田大学校歌」を出演者全員で歌うエール交歓で締めくくりました。



今年(第13回)のエール交歓：整然と並んだ本来のフォーメーション



2年前(第12回)コロナ禍のエール交歓：距離をとるため舞台全面と2階席にも広がった



マスクを着用し、密にならないよう距離をとっての演奏だったが歌えることの喜びが溢れていた

前回(第12回)の様子は『おんがく広場』第181号に掲載してあります。ご参考までにご覧ください。

[https://rkato.sakura.ne.jp/music/ongaku\\_hiroba\\_181'.pdf](https://rkato.sakura.ne.jp/music/ongaku_hiroba_181'.pdf)

## ?!?!?!

ところで余談ですが、名称こそ違えそれぞれ「校歌」に位置付けられているのに、東大だけは「校歌」ではありません。「校歌」と呼ばれるものがないことをうけ、2004年度に設置された「校歌等検討会」の答申と同年10月に開催された学内合同会議で、つぎのような申し合わせがなされています。

応援歌「ただ一つ」及び東京大学運動会歌「大空と」を「東京大学の歌」として位置づけ、式典や応援などのその場の状況に応じて歌い分ける

その後、「東京大学の歌」の歌詞を募集しましたが、結果として入選作品の選出は見送られました。その理由は、以下のとおりでした。いわゆる「校歌」を今さら作るのはかなり面倒なことのようです。

第3の「東京大学の歌」として、応援歌としての「ただ一つ」、重厚な雰囲気「運動会歌(大空と)」とは重ならない新しい曲調となる歌詞を期待していたが、応募作品にはこれらと重複する雰囲気の作品が多かったこと。オリジナリティーのある作品については、作品としての主張が伝わらないものもあり、東京大学の歌として普遍的に歌い継がれることが難しいと思われたこと。口語調の作品においては、音数(歌詞の区切り)の関係で作曲が難しい作品が多かったこと。その他、飛躍しすぎた作品については「東京大学の歌」として歌うことが難しいとされたこと。

## 東京六大学OB合唱連盟演奏会の歩み

第1回演奏会は、1999年4月昭和女子大学人見記念講堂で開催されました。この時の合同演奏では、『多田武彦の雪・月・花』と題し、「柳河」、「片恋」、「作品第貳拾壱(宇宙線富士)」が演奏されています。第1回の参加人数と30年目の現在とを比べてみると、慶應ワグネル以外はすべて減っており、大学の男声合唱団が衰退している傾向がよくわかります。

	第13回 2024年	第12回 2022年	第1回 1994年
慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団	78	75	52
東京大学音楽部OB合唱団アカデミカコール	51※	52※	66
法政大学アリオンコールOB・OG会 男声合唱団オールアリオン	32	19	35
明治大学グリークラブOB会 合唱団駿河台倶楽部	49	32	73
立教大学グリークラブOB男声合唱団	25	25	53
早稲田大学グリークラブOB会・稲門グリークラブ	71	44	94
合同演奏	306	245	296

(※ 含賛助出演3)

(※ 含賛助出演2)

(※ 含現役出演6)

## 大学グリーを救えるか Project GO!

「大学の男声合唱の衰退が叫ばれて久しい」とすでに2006年には問題視されていました。名門といわれる大学でも、入団希望者が減少しているうえに少なからずいる初心者を一定のレベルに短期間で引き上げるのは容易なことではありません。さらに、一所懸命育て上げたとしても4、5年もすれば卒業してしまいます。比較的の規模が大きく、歴史があるところは、OBの組織力やバックアップが期待できる部分もありますが、それもままならない学校ではなすすべがありません。



しかし、このような窮状に手を拱いてばかりでは何も解決しない、何か手はないかと立ち上がった学生たちがいました。新しいスタイル、新しい可能性、新しい合唱を提案し「男声合唱を盛り上げよう」と、早稲田を中心とした、麗澤、お茶の水、外語大、学習院、学芸、武蔵工、東大、医科歯科などから有志が集まりました。名付けて**Project GO!** (プロジェクト・ゴー:略して**プロゴ**)。G=Glee、O=Orchestra、男声合唱とオーケストラを融合させようというところからのネーミングでした。

プロゴは、そもそも2003年5月に行われた東京六大学合唱連盟定期演奏会(東京六連)の合同演奏でポップスを演奏したことがきっかけで発足しました。詳しくは下記をご覧ください。あの活動は今どうなっているのでしょうか！

<http://www.max.hi-ho.ne.jp/rkato/Document/music/m70%20project%20go.htm>

---

**Back**

「音楽／合唱」TOPへ戻る

**Home**

「ホームページ」表紙へ戻る